
境界の言葉

euReka

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

境界の言葉

【Nコード】

N0814H

【作者名】

eureka

【あらすじ】

雲と空、つないだ手と手、さよならとこんにちは——そんな、何かと何かの境界からこぼれ落ちた言葉をいくも拾いあつめて——僕は博物館をつくった。（本文冒頭より）

雲と空、つないだ手と手、さよならとこんにちは——そんな、何かと何かの境界からこぼれ落ちた言葉をいくも拾いあつめて——
—僕は博物館をつくった。

「このお店……」三十代くらいの上品な女性が、展示物を見渡しながら僕に尋ねる。「いったい何のお店ですか？」

博物館は静かな住宅地の中にある。だからよく画廊か何かと間違える客がいるのだ。

僕は微笑しながら答える。

「申し訳ありません。ここは博物館なんです」

「博物館？　じゃあこれは何ですか？」

「それは、おとしの秋にみつけた《ドングリとリスの境界からこぼれ落ちた言葉》です」

「ドングリと、リス？」

「ええ。もみじ狩りへ行ったときに森の中で拾った言葉なんです。読み方や意味は不明ですが」

「そうですか……」女性は展示された言葉をじっと眺める——自分の言葉を探すように——あるいは困惑しながら。「世の中にはいろんな言葉があるんですね……。初めて見る言葉なのに、どこかなつかしいような……」

ある老人は、きまって火曜日になると博物館へやってくる。

「《一万円札と売春婦の境界からこぼれ落ちた言葉》か。くだらん老人は大抵の言葉にケチをつける。「どうせ意味など無いのだろう？」」

「いいえ、意味を知ることが出来ないだけです」僕は老人に説明する。「ある研究によると、古い時代の人類は、そのような境界の言

葉を自在に使いこなしていたそうですよ。もちろん、文献などは残っておりませんが」

「ふん。言葉というのはな、それぞれが別々に分かれているから意味があるんだ。あんたの集めてる曖昧な言葉なんて、そもそも言葉とは呼べんのさ……。なにになに……。《火曜日と老人の境界からこぼれ落ちた言葉》だと？　これはワシのことか？」

あるとき、ふいに昔の恋人が博物館にあらわれた。

「元気だった？」彼女は、少し疲れたような顔をして言った。「あなた、また変なこと始めたのね……」

「別に変じゃないさ……。君こそ元気だったかい？」

彼女は何も答えず、展示物を興味なく眺めた。

「あなた、まだ詩は書いてるの？」

「いいや。詩なんて書いたことないよ」

彼女は軽く溜め息をついた。

「《人さし指と流れ星の境界——》か……。なんだか平凡な組み合わせね」

「組み合わせはどうでもいいのさ。そこに言葉をみつけることが大切なんだよ」

彼女は、僕を見て微笑した。

「あなたって、何も変わらないのね……。そんな言葉は、どこにも存在しないのよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0814h/>

境界の言葉

2010年12月16日14時28分発行